

フランスで流行！動物セラピーの魅力って！？



長かった夏休みも終わり、日焼けした顔が学校や職場に戻ってきました。九月は新年度の始まりということで活気が感じられる反面、人によってはヴァカンスとの落差に慣れなくて、早くも五月病ならぬ九月病？なのか憂鬱げな表情だったりします。それもそのはず、新年度は教育費もかかれば所得税、続いて住民税、固定資産税・・・と、税金の請求書がバンバンと届く時期。急に現実に立ちかえらざるを得ない季節でもあるのです。

様々な種類のThérapie

意外とストレスの多

い社会であるフランスで、このところよく耳にするのは--- thérapie (セラピー) という言葉。

例えば

- Aromathérapie (アロマセラピー) は、植物のエッセンスオイルなどの香りでリラックス効果を得ようというもの。
 - 美術品に癒されるのはArt-thérapie (アールセラピー)
 - 読書で癒し効果を得るのはBibliothérapie (ビブリオセラピー)
 - 動物との触れ合いが効果的なのはZoothérapie (ゾーセラピー)
- などなど。

フランス人ってそんなに癒しが必要なの？と驚いてしまうほど、種々多様なthérapie (セラピー) が話題になっています。

Asinothérapie (アジノセラピー)



ところで、Zoothérapie（動物セラピー）で使われる動物は身近な犬や猫とは限りません。最近良く聞くのはAsinothérapie（アジノセラピー）と呼ばれる**ロバ**を使ったもの。ロバは頑固なことで知られる動物です。専門家によれば、その人間に媚びない面を心地よく感じる人のセラピーに向いているのだとか。

ロバに会える専用農場



フランスとベルギーの国境近くにあるロバ農場

La Z'Âne Attitude (ラ・ザヌ・アティチュード) <http://lazaneattitude.jimdo.com/>
はロバが好きでたまらないメンバーが作った農場で、現在26頭のロバを飼育しています。

予約制でロバ・セラピーを行っていて、毎週水曜と週末の午後は一般にも開放されているので誰でも自由にロバと触れ合うことができます。備え付けのブラシで毛を梳いてやるのもよし、見ていただけでもよし。有料ですが、子どもはロバの背に乗り散歩もできます。

売店と喫茶コーナーも併設されていて、入場は無料。売店に並ぶのはロバ関係グッズ。ロバ乳入りの基礎化粧品もあり、アトピー肌にも良いと書いてあります。確かに！以前使ったロバ乳入り石鹸は使用後感が良かったことを思い出しました。



寒い土地柄でしょうか。農場は温室のような室内設計になっていますが、匂いも気にならず清潔感にあふれています。

まとめ

ロバにそっと近づく子どもたちも、それを見守る大人たちも、みな一様に表情が柔らかく、もしかしたらこれがロバ効果なのかも...と感じた午後。

気分がささくれだったときには、ロバでなくても動物とのコンタクトを試してみるのも一案かもしれませんね。



執筆：冠ゆき

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

